

視察報告概要

- 1 視察日時 平成28年5月19日(木)
午後1時30分～午後4時30分

2 視察先及び視察事項

- ・視察先 千葉県千葉市(千葉市中央区大巖寺町200)
- ・視察事項 淑徳大学学生消防隊について
 - ① 結成の経緯
 - ② 消防車設備等の予算措置
 - ③ 活動概要
 - ④ 効果(学生にとって)意識や技能、進路・就職先等
 - ⑤ 効果(地元消防団にとって)、市民の反応等
 - ⑥ 今後の課題、展望

3 視察の目的

消防団のなり手不足の問題は全国的な課題となっているが、本市においてもその解決に向けて継続的に努力していく必要があるものと認識している。

本市には、早稲田大学や日本大学等、複数の大学のキャンパスがあり、市当局や消防団は、若い担い手として多くの学生に消防団に入団していただくことを目的に、各種入団促進活動を行っている。先般、本市議会は早稲田大学とパートナーシップ協定を締結したが、今後さらなる連携として、より多くの学生の消防団への入団、活躍が期待されている。

千葉市の淑徳大学においては、防災減災能力の向上を目指した学生消防隊が組織され、大学周辺地域の防災パトロールや防災ボランティアの実施、千葉市消防団に所属することによる出初式や操法大会への出場など、多くの実績をあげている。

このような先進的な取り組みは、本市としても大いに学ぶべき点があることから、これらを視察し、今後の審査等、種々参考にしたい。

4 視察の概要

平成28年5月19日(木)午後1時30分より淑徳大学において、学内の視察の後、千葉市議会事務局広川氏の司会により、淑徳大学地域連携室課長補佐兼千葉市消防団第3分団5部(大巖寺)部長松崎氏の挨拶と学生消防団員の紹介、青木委員長の

挨拶の後、千葉市消防局総務課田村課長補佐、國吉消防団係長、淑徳大学松崎課長補佐から視察事項の説明が行われた。

その後、学生消防団による消防操法訓練の視察を行った。

◎千葉市消防団の概要

人口約97万人に対し、団員の条例定数840人、政令市移行による6行政区設置に合わせて1団6方面隊18分団体制となった。現在774人の団員のうち、女性団員が181人活動している。平成25年には条例定数より120人ほど減っていたが、現在は定数より60人ほど少ない状況である。昨年度の出動は、火災・警戒・訓練の合計で281回、延べ9,579人の活動があった。

任用資格については、企業消防団と淑徳大学の消防団設置に伴い、市内居住に加え、市内に勤務又は通学している場合も可能となるよう、平成19年に条例改正を行った。その後、報酬、費用弁償についても見直しを行っている。

現在の課題として、主に活動する世代に20歳から30歳までの若年層が少ないということがある。

◎大学生消防団・企業消防団設置の経緯について

平成18年、千葉市・大学連絡協議会の会議で市内の大学に対し大学消防団についての説明を行った。いくつかの大学が関心を示す中、特に熱心であった淑徳大学が参画、平成21年5月に「学生消防隊」を結成した。このときは既存の消防団で団員として活動を始め、平成22年に全国初の大学内に消防団組織である大学生消防団が発足した。

企業消防団については、平成17年に東日本電信電話株式会社千葉支店より、地域貢献の観点から消防団設立の要望があった。この時に加入しようとした方が千葉市に居住しておらず任用要件を満たせなかったことから、平成19年の条例改正につながった。その後、平成21年に企業消防団が発足した。

近年では、学生消防団・企業消防団を合わせて、およそ20人前後で団員数が推移している。消防団員としての待遇や市との関わりは、身分・報酬・出動手当、被服等貸与品・公務災害補償・退職報賞等、他の団員と一切変わらない。訓練、イベントへの参加、火災出動についても、学生としての特別な扱いはない。

問題点として、1つ目は、卒業、転勤による短期間での団員の入退団がある。2つ目は、在学・在勤の方は千葉市に居住していないので、出動時間帯の制約があることである。ただし、祝休日の活動等について免除することはない。

◎大学生消防団の活動状況について

大学構内には、大学生消防団の部室、消防団器具置場、消防車両、消防車両駐場所が大学により設置されている。

大学生消防団は、地域において他の消防団と同様に消火活動や警戒活動等を行っており、防災拠点の役割を担っている。平成27年度は、千葉市消防団として訓練8回、警戒8回の活動を行い、その他に大学生消防団として大学内で毎週活動を実施してい

る。過去の災害出動実績としては、近隣の火災で3回の出動があり、内2回は授業中の出動であった。

千葉市消防団操法大会にも出場し、平成24年には多くの消防団が出場する中で、敢闘賞を受賞した。その他、総務省消防庁が主催する検討会等にも参加し、活動事例の発表やパネルディスカッションを行った。

◎消防団協力事業所制度について

平成18年に総務省消防庁が構築した消防団協力事業所制度に基づき、平成21年に千葉市消防団協力事業所制度実施要綱を策定した。淑徳大学は平成21年6月に消防団協力事業所となった。認定基準は、1. 従業員が消防団として相当数入団、2. 従業員の消防団活動について積極的に配慮、3. 災害時等に事業所の資材等を消防団に提供、4. その他消防団活動に協力している等、特に優良と認める、となっている。

◎千葉市学生消防団活動認証制度について

消防団活動で一定の実績を取めた大学生等に、千葉市がその功績を認めて証明書を交付するもので、公的にその功績を認証することにより、就職活動において積極的に評価されることを期待するものである。これにより、消防団員の加入促進や消防団活動の活性化を図ることをねらいとしている。千葉市長が認証することで、消防局長や消防団長による認証と比較し、企業へのアピール力が格段に上がることを期待している。国が経済界へ周知をしているが、千葉市としても商工会議所などへ証明書の周知・活用に向けて取り組みを行っている。

◎消防団支援について

施設・活動資機材の充実に努めており、平成27年3月には消防庁より無償貸与された救助資機材搭載型小型動力ポンプ積載車を配備した。それまでは消火活動が主だったが、救助についても常備消防だけでは対応しきれない分をカバーすることが目的。

平成25年には、消防団からの要請により、デジタル無線機を導入した。常備消防と交信が可能で、消防車両への設置や幹部への配置で98台配置した。また、器具置場の建て替えの際には、デザインを一新して消防団のアピールを行っている。

◎教育訓練・研修について

千葉市消防学校が独自に設置されており、県の施設へ行くことなく短期間で全員に研修を実施することができる。こちらの研修だけではなく、千葉県消防学校や消防団学校、日本消防協会の研修にも継続的に参加している。

◎淑徳大学学生消防隊と消防団について

平成21年に学生消防隊を結成し、平成22年には千葉市消防団第3分団5部大巖寺部が発足した。大学構内に消防団が設置されたのは全国初。活動目的として、地域及び淑徳大学の安心・安全を守るため、災害が起きたときなどに対応して防災知識を深め、「自助・共助・公助」の防災教育を行う。また、自分たちの将来にも消防隊で

身につけた知識、経験を役立てていく。

また、大学内のサークルとしての消防隊と、特別職の非常勤公務員としての消防団の2つの顔がある。

学生消防隊の活動内容として、ポンプを使用した放水訓練、地域の人に向けての防災教育、自身の防災知識を深めること、車両のメンテナンス、災害支援ボランティアなどがある。具体的には保育園や小学校での防災訓練の指導や、地域の七夕まつりでの車両展示による交流が挙げられる。

消防団の活動としては、操法大会への参加、消防車を用いた機関運用訓練、地域住民の防災訓練への参加、地域の安全のための夜間の見回り活動等がある。また、花火大会の会場警備、出初式への参加、火災への緊急出動も行っており、これらの取り組みは、各種マスコミ報道で取り上げられている。

また、千葉県内の3大学コラボとして、千葉科学大学、帝京平成大学、淑徳大学が合同で啓発活動やシンポジウムを行っている。

団員の中には、震災や、被災地のボランティア経験から、学生の力でどこまで地域に貢献できるか挑戦したいと入団を決めた学生もいる。

◎質疑応答

質疑 学生消防隊と学生消防団とあるが、サークルのメンバーと消防団のメンバーは一緒なのか。

応答 一緒ではありません。アルバイトや、いろいろな活動をしている、また、身体上の理由等で消防団に入っていない学生もいるので、学生消防団より学生消防隊のメンバーの方が多いです。学生消防隊の消防団との明らかな違いは、大学内のサークルであるという形上のこともありますし、活動できるエリアの違いもあります。消防団は上部の消防組織と共に活動するということから、所属している地域をエリアごとに分かれて受け持つことが定められております。学生消防隊に関しては、サークルですので、どこに行ってもサークル活動をしてよいわけです。例えば、東日本大震災の発災の時などは、常備消防の方も、警察関係の方も、派遣活動ということであちこちに行かれて活躍されたと思いますが、学生消防団員は地域を離れて活動することは、なかなか難しいです。しかし、サークルの場合は、ボランティアとしてそういったことに入って行き、消防団で学んだ知識、消防隊で練習した技術を活用して、現地の消防団の方と一緒に活動したり、被災者の方と一緒に避難所運営のお手伝いをしたり、そういった活動をさせていただいております。

質疑 松崎課長補佐は、大学の先生なのか。

応答 大学の事務方の職員です。

質疑 消防団に1年間入団されたのか。

応答 そうです。最初は、この地区の消防団に全員入りました。消防団とはいっても

制服や活動服などの装備を見るといっばしの関係者ですが、全く技術がないわけです。ですから、先輩たちが活動している近隣の消防団に、最初1年間所属し、いろいろな技術を学びました。それと共に消防学校でも消防職員の方からいろいろ教わったりして、何とか半人前ですが消防団員らしくなって、1年間の活動を認めていただき、第3分団5部という新しい部を創部していただきました。それまでは、男性は第3分団1部、女性は第3分団3部に所属しておりましたが、全員が第3分団5部（大巖寺）という新しく作ったチームの中に入って活動しております。そして、私が、部の取りまとめを務めさせていただいております。

質疑 例えば、早稲田大学が同じようなものを作ろうとしたら、早稲田大学の事務職員の方や先生が、所沢市の消防団に1年ぐらいいは入って、経験を積んでいただき、これだったらできそうだという形にもっていかないと、難しいということか。

応答 千葉市も、淑徳大学以外の大学に消防団入団のお願いに行っておりますが、やはり、淑徳大学のような職員がいてということの方が、学生も入りやすいのかなと思います。

応答 先程、千葉県における消防関係の3大学が集まってシンポジウムを開いているという話をしましたが、それぞれ大学ごとに特色が違います。銚子市に位置している千葉科学大学は、先生方にも警察や消防関係のOBの方がいらっしゃって、警察官や消防士を目指すための専門の勉強ができる大学です。また、すぐ隣の市原市の帝京平成大学は、救急救命士コースを持つ大学です。私ども千葉市中央区の淑徳大学は、そういった警察官や消防士といった公務員を目指す学科を持ってはおりません。どちらかというとは畑違いの、福祉、障害者とか老人の介護を目指す学生が集う大学です。もともとの成り立ちが福祉からきており、ボランティアというのはその辺りから培われています。もともとの大学の生い立ちも違いますし、また、千葉科学大学、帝京平成大学は自分自身が消防士になるという目標をもって練習しています。千葉科学大学のように常備消防とも綿密に連携を取って、消防団員になっている方もいますが、学内で活動している学生は、消防隊ということで、あくまでサークルとして活動しています。

また、帝京平成大学は、大学から買い与えられた消防の装備をもって練習をしていますが、外に行つての活動はしていません。私どもは、福祉系の大学で、ボランティアという観点から学生消防隊を結成して、ボランティアセンターが平成17年に今の組織になり、その後いくつかの地震等の災害があり、防災に特化したボランティアサークルを作りたいということで、学生とボランティアセンターが企画し、千葉市消防局などの力を借りて、防災フェアを実施しました。その防災フェアに関心を持って集まってくれた学生が学生消防隊となり、やがて消防団員となって、今の基礎作りをしているという経過になっています。

質疑 平成22年にできて、この3月で6年が経ち、76人が消防団員として卒業したわけだが、そのうち消防士になった方は何人いるのか。

応答 消防士になった学生は4人おります。学生消防隊をつくる基礎になった学生が

千葉市消防局におり、初代の学生消防隊の隊長も千葉市消防局でお世話になっております。その他、船橋市、成田市の消防局の職員になっております。その他、消防士ではありませんが、警視庁や千葉県警に公安職員として入職している者もおります。

応答 消防職員になることが目的で入ってきている学生ばかりではないため、それぞれ福祉の現場や、教育の現場、千葉市の職員など行政の現場にいる者もおります。

質疑 消防車1台は大学で買われたのか。

応答 はい。赤灯はありませんが、サイレンのマイクはついております。岡山県の消防団で使われていた古い車両を、サークルの活動として購入したのですが、整備はされていてポンプも積んであり、パトロール警戒も使っております。実際に東日本大震災発生時には、小回りが利くので細かい道のひび割れをパトロールしたり、水道管の破裂などを見つけたりしました。もう1台は千葉市消防局から貸与されているものです。

応答 千葉科学大学も消防車を持っていますが、ナンバーを切った学内の中で使える教材として持っております。私どもは、小さい車ですがナンバーをつけており、近くのお祭りや、保育園、幼稚園などに持っていき、千葉市消防局から子ども用の防火衣を借りて、それを子どもたちに着てもらい、消防活動や防災活動に関心を持ってもらい、PRとしても役に立っております。

質疑 最初10名集められ、その前にボランティアに興味がある学生をたくさん集めて、その中から消防隊員、消防団ができたということだが、だいたい全部で何人くらい興味のある学生を集めたのか。

応答 イベント自体には400人から500人くらいの学生と先生方が体験してくれましたが、実際名前を書ってくれた人は20名くらいでした。その中から10名くらいが入ってくれて、翌年、消防団員の辞令をもらって、消防団の活動をしました。

質疑 松崎課長補佐が消防団から離れた場合に生じる課題は何か。

応答 まず、大学側の物的、環境面の支援の継続です。現在と同じ方向の視点を上司にも持って頂かないとなりません。また、若い人は内容を知らないので、消防団の活動をアピールしていく必要があります。物質や人事的な仕組みも必要ですが、そういった背景も必要だと思います。

応答 実際に早稲田大学の所沢キャンパスはわかりませんが、早稲田キャンパスには多くの学生がいるので消防団に入っているかの調査を行うことで、1桁、2桁はいるのではないかと思います。それは、新宿消防団とかではなく、自治会、町内会、青年会などの関係で入っているケースが多いと思います。私どものように、大学に集っている学生が市民のために何かできないかということで活動するのは、大学側の後押しがないと続かないのではないかと思います。今までいくつかの視察を受けて、私どもも、全国に1つでも多くの学生消防隊の輪が大きくなってい

かないかと思い活動していますが、なかなか新設の話聞きません。

質疑 うまく回っているところは学生と大学をつなぐ職員がいるのか。

応答 そういったキーマンが必ず必要だと思います。後はその活動を継承していくために、システム作りや活動内容の検討が必要になります。

質疑 他に大学が提供しているものは。

応答 ミニ消防車も大学で管理しています。軽自動車税が今年上がり、またガソリン代や消耗品代なども掛かります。消防団の車は千葉市で持って頂いているため、ほとんど費用が掛かりません。

質疑 淑徳大学に消防団ができたことで、地域の見直し、再編はあったか。

応答 市内18エリアありますが、区分けの見直しをしました。

質疑 サークルと消防団で、普段の活動内容の違いについて。

応答 重複する部分もあります。サークルでは、消防団で教わった訓練の反復練習を行ったりしています。1年生が入隊しましたが、団員の辞令はまだもらっておりません。8月の入団を目指しており、学生消防隊に入り様々な活動をすることで、自分にとって向いているのか判断する期間でもあります。消防団活動は貴重な財源によるものなので、4年間は続けて欲しいですが、特に千葉市内に在住や、勤務する学生には卒業後も続けて欲しいと思います。

質疑 4年間サークルとして続けようとする学生はジャージやTシャツでも良いのか。

応答 安全のために、消防団として活動する時は、千葉市から支給されたものを、学生消防隊は独自の制服を持っています。

質疑 制服は個人で買うのか。

応答 靴、シャツ、ベルト、ズボンまで自費になります。

質疑 消防団員は2つ持っているのか。

応答 2つ持っております。

質疑 出初式には参加しているのか。また、他の消防団との連携や、今後の具体的な提案などについて伺いたい。

応答 出初式には参加しております。自治体によっては機能別消防団員ということで活動の内容を限定した消防団を採用しているところもあり、数多くの学生団員を集めています。私どもは、一般の消防団員と変わることなく活動していますので、出初式にも参加し、警備警戒、演技にも参加します。

応答 他の消防団との連携について、第3分団内での連携はしております。それ以上だと、中央区方面隊として活動しております。将来的には、機能別も検討してい

きたいです。

質疑 消防団に配車するに当たり、予算はいくらなのか。また、市からの予算はあるのか。消防警察以外に就職にはどれくらい有利なのか。

応答 消防団の予算については大学では分かりませんが、こちらの消防車は新車ではなく、地域の消防団として存続できなくなったところの車を譲ってもらったものになります。補助面も多くはありません。新しいものには責任も伴うので、逆に気楽に運用できた面もあります。しかし、消防車を預かるとなると、車庫も必要となり、大変だと思います。

就職に関しては、消防庁が検討した認証制度により、学生からも期待されております。実際の採用の有無に関しては分かりませんが、学生にとっての誇りとなり、活動の証となるため、活用して欲しいと考えております。

質疑 学生消防団員と地元の消防団員との交流、懇親会について。

応答 年に2回実施しております。千葉市消防団が6区あり、中央区だけで145名程おり、中央消防署の職員と会議をした後、懇親会を実施しました。学生は、20歳未満の参加は飲酒禁止のためできません。社会人の様々な先輩の話を聞く機会にもなり、学生も喜んで参加しています。

結成前はいろいろ苦勞もしたと思いますが、4年しか続けられない学生でも、ベテランに謙虚に教えてもらい、一緒に訓練する中で、認められてきた部分があります。操法大会で受賞することで周囲からの見られ方も変わりました。周りのバックアップもあり、私たちも良い方向に変わっていかないとはいけないと思いました。

応答 第3分団の中で大学生を1人の団員として扱っていることで、淑徳大学の消防団は伸びていると考えます。

質疑 消防団員の必要性を感じるが、これからは入団促進というテーマがこれからの課題となってくると思う。その辺で工夫しているものがあれば教えて欲しい。

応答 入団促進についてですが、5年前に団員が減った時に、消防団があるのですかとか意見があり、知名度が低い、情報量が少ないということがわかりました。そのため、その年はメディアにアピールしたり、ホームページにも情報を多くアップしたり、市民見学会や各種消防局のイベントなどに局員自ら出て行って認知度を上げる努力をしました。その結果、知名度も上がり、団員がふえることにもなりました。また、こういった活動に対して、総務大臣から感謝状をいただくということもありました。

5 所感

全国の自治体で消防団員の高齢化が問題となっているが、一朝一夕には解決できない状況である。そのような中、淑徳大学の千葉キャンパスにおいては、消防団として一つの分団を任され、学生が消防団活動を行っており、その先進的な取り組みは、市

内に複数のキャンパスを有する所沢市にとって、大いに参考になる点があった。

また、学生消防団の継続的な活動が、大学側の理解や協力があって初めて成り立つものであることも、今回の視察を通じて理解できた。

今後は今回の視察で得た視点を委員会での審査に活かしていくとともに、必要に応じて所管する部署に対して要望や提言等を行っていきたい。